

統計からみる日本人の人間関係と幸福に関する研究

館田光輝

要旨本文

本稿では、人間関係を大切に継続することにより、喜びに満ちた幸福な人生を送ることができるという仮説に基づき、研究をしている。また、研究の目的としては、人との繋がりという部分に焦点を当て、日本人の幸福について調査をし、是非や効果量の考察をすることである。家族や友人、地域の人という枠組みの異なる人との各関係による幸福度の違い、他者との関係の強度による幸福度の違いを数値として分析することにより、人との繋がりにより、日本人は幸福になることができるという説の是非を明らかにする。調査方法としては、内閣府が実施した、過去 3 年間分の<満足度・生活の質に関する調査>の個票データを二次分析する。

分析の結果として、日本人の幸福には、人間関係が良好であることが関わり、家族に比重があることがわかった。一方で、近年の家族関係の背景やコロナウイルス感染症の影響によりコト消費が減少し、幸福度が低下したことから、家族以外の繋がり日本人の幸福に大きな影響力があると考えていたが、回帰分析の結果が示したものは、予想とは異なるものであった。自粛生活による家族関係の変化によるものであったことが否めない。